

平成 30 年度第2回常磐公園の緑を考える集い 開催結果

日時 : 平成 30 年 10 月 26 日 (金) 14:00~15:40
会場 : 旭川市中央図書館 2 階研修室
出席者 : 市内在住の市民 8 名
旭川市土木部公園みどり課 4 名
有識者 (常磐公園自然環境調査ワークショップ参加者) 2 名
配付資料 : 説明資料 (当日配布)

○開催内容

- 1 開会
- 2 オリエンテーション
- 3 自然更新ゾーンについて
- 5 ブッシュについて
- 6 樹名板の作成について
- 7 樹木更新について
- 8 閉会

自然更新ゾーン・ブッシュゾーンについて

- ブッシュゾーンについて、カンタンを呼ぶためにオオヨモギを移植したが、カンタンは他の植物も摂取する。その植物も（害がなければ）植栽や移植を検討してはどうか。

樹名板の作成について

- 提案している樹齢推定方法は理解できるが、樹木は気象条件や地質により生育スピードが異なる。この推定方法の妥当性について専門家と協議するとよい。
- 年輪を数えることも難しい。ある程度慣れや経験が必要。
- やはり成長錐を使う方法が正確である。後処理を行えば腐朽の可能性は低いので試験的に使用しても良いのでは。
- 樹齢を推定するならばできるだけ正確に行いたい。そのためには成長錐を使用してもよいと思う。
- いずれにしても初めは試験的に作業することになるので、樹種は限定したほうがよい。
- 対象樹種は、公園内にドロノキの切株が多くあるので、これを選定するとよいのでは。
- 初めのうちは樹齢を推定する対象木について、切株からの推定と成長錐からの測定の両方を実施して、切株からの推定方法の精度を確認してみたい。この結果から、推定方法の再考ができ、精度をあげていくことができると思う。
- あまり裾野を広げずに、市民協働でできることを模索していきたい。

樹木更新について

- 「自然更新ゾーン」の2本の実生（ドロノキ・ハルニレ）を常磐公園内の適正な位置に移植し、樹木更新を計ること自体はよいことだと思う。
- これらの実生は平成28年度に確認されたものであり、樹齢も若いことから移植は時期尚早ではないか。
→ 移植作業自体も市民協働のなかで実施していきたいので、あまり大きいと作業が困難となる。移植の可否は来年度改めて確認したい。
- 緩傾斜区域にある枯損木の更新樹木とする案については、緩傾斜区域は風が強く環境が厳しいところもあるので実生の移植はやめたほうがよいと思う。
- 次回以降、実生の適正な移植位置を協議していきたいので、常磐公園の散策時等の際にでも検討してほしい（市意見）

フリートーク

- 池の水を抜いて生態系調査や浄化はできないだろうか。百年の歴史ある公園、多少の予算がかかっても計画してみてもよいのでは。
→ 現在生息している生物の移動や汚泥の処理などに数千万単位の予算が見込まれるうえ、現状では池への水の流入量が不足している。水量の確保には水利権等の課題があることから現在のところ、池については今まで通りの維持管理を行うこととしたい。
- ブッシュゾーンの改良には面積の増と灌木の植栽が必要。